



## ◇ 平成30年度 学校評価について ◇

本校では、よりよい学校づくりに向けて、生徒・保護者アンケートをもとに職員が自己評価を行い、本年度から導入された学校運営協議会（コミュニティスクール）にてご意見をいただきながら、次年度の教育活動について具体的な改善策を検討してきました。概要は下表のとおりです。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

評価項目	学校運営協議会でのご意見	学校運営協議会の結果を受けた学校の対応
教育課程 学習指導	考動タイムは、生徒同士の繋がりを強める点で良い機会。ICT機器についての生徒も十分に活用できるような取組も必要。図書館活用については、その整備が行われている中でさらに工夫する。学習中に生徒自身がゆっくり考える時間が必要。	学ぶ力の向上にあたって家庭学習の習慣化を大切に、「自主学習ノート」の有効活用を進める。ICT機器や図書館活用では、昼休みの開館だけでなく、授業での利用を図る。生徒の授業中の考える時間や対話する時間を設定し議論を深める。
生徒指導	あいさつがよくできていることは、地域の誇りでもあり、今後も積極的にあいさつ運動を進めてほしい。SNS等の普及で、子どもの繋がりが広がり、トラブルに巻き込まれる可能性がある。不登校生徒に対して、在学中はよいが、卒業後の支援について引き続き関係機関との連携が必要。	生徒・保護者アンケートにSNSに関わる質問を設定し実情の再確認をするとともに、講演会や学級指導をとおして情報モラル教育を進める。いじめゼロプロジェクトなど生徒会活動や教育相談を充実させ、いじめの防止、早期発見と対応にあたる。関係機関との緊密な連携を継続する。
人権・同 和教育	自分のことが好きかというアンケート質問は中学生として照れくささがあることも考えられ、文言を変えた方が良いかもしれない。生徒の豊かな心の育成に繋がる人権教育をさらに進めることが必要。人権感覚を磨くために差別の現実学ぶことが大切であり、研修を深めることが大切。	地域とともに培ってきた人権・同和教育に関する取組を基盤に、生徒の自尊感情を高める取組をさらに進め、差別を見抜き、許さない意識の醸成を図る。豊かな心の育成に向けて、これまでに重点的に取り組んできた「考え、議論する道徳」を強みとして定着させる。
特別支援 教育	医療や福祉の専門機関との連携を進めるため、地域の力も使うことが大切。総合的な支援を進めていくうえで、教職員の共通理解はもちろんのこと、小学校・中学校・高校との連携も大切。	本校に通級指導教室が設置されていることの強みをいかした取組を進める。特別支援コーディネーターを中心に、個別の支援計画や指導計画を適切に更新し、有効な活用を図る。医療や福祉等の関係機関との連携強化、教職員の研修の充実を進める。
組織運営	学校ホームページに動画を組み込むなど、生徒の活動の様子を保護者がさらに知ることができるような工夫が必要。学校だよりや学年・学級通信だけでなくメール配信の充実が大切。	学校の教育活動に関して、学校ホームページの構成を工夫し、見やすい内容に整える。お知らせ等の文書と並行して学校メールの随時発信を進める。
保健・安 全管理	災害や不審者対応等で、学校と地域、関係機関が機能的に連携することが大切。防災訓練や避難訓練等を学校と地域が協働で行うことも考えていくことが必要。	危機管理や防災マニュアルを周知徹底し、消防署や警察署とも連携して自然災害や不審者を想定した避難訓練を行う。各種訓練では、生徒自らが自身の命を守る事とともに教職員が生徒の安全を確保する実践力の向上を図る。有事の際に相互援助できる力の育成を進める。
研修	道徳の授業研究等とおして、生徒が考え、意見を発表する力をつけていくことが大切。今年度まで文部科学省の委託を受けて実施した道徳教育の抜本的改善・充実の成果を生かすことが重要。	「考え議論する道徳」を本校の強みとして継続し、次年度はさらに道徳教育の評価方法について研修を深める。主体的・協働的な問題解決学習を推進するとともに、学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。
保護者・ 地域住民 との連携	地域行事への部活動や生徒会の参加を引き続き期待したい。また、部活動の指導に地域の人材がいかせるとよい。合唱コンクール等の開催場所など施設が狭くなっていることで地域の他の施設利用も検討することが必要。地域の学習環境を向上させるためには、学校と地域が共に力を合わせる必要が重要。	現在実施しているあいさつ運動や地域協働校の取組をはじめとする保護者や地域が参加しやすい学校行事を検討し、参画の充実を進める。学校の活動状況をさらに情報発信していく。郷土に誇りがもてるよう地域で開催されるイベントや行事への生徒の積極的な参加を引き続き促していく。